

発表題目：孤立環境における日本語教育の現状と課題ーキルギス共和国を例としてー

発表概要

1. 研究の背景と目的

現在、海外における日本語学習者数は298万人（国際交流基金2006）、日本国内における日本語学習者数は14万人（文化庁文化語部国語課2004）である。海外日本語教育機関調査（国際交流基金2006）によると、海外の133か国（厳密には126か国と7地域）で日本語教育が行われており、日本語教育機関数は13,639機関、日本語教師は総計44,321人となっている。海外の日本語教師のうち、日本語を母語とするものは約3割、約7割は日本語を母語としないものである。

キルギス共和国では、1991年8月に旧ソ連より共和国独立宣言して以降、本格的な日本語教育が開始されたが、この分野についての研究は管見の限りなされておらず、中央アジア全体に広げても先行研究はほとんどない状況で、この地域の日本語教育研究は始まったばかりだと言える。

日本と経済的、地理的・物理的、文化的、歴史的に関係が浅い地域での日本語教育を「孤立環境における日本語教育」と呼び、歴史、文化、経済、国際関係といった様々な分野から、その地域が直面している多くの問題を学際的に分析し、新たな日本語教育の方向性を導きだし、いかに日本語教育を構築していくかについて考察する。

2. セミナーでの発表内容

1. キルギス共和国概略
2. キルギス共和国における日本語教育の歴史
3. シルクロード外交
4. 孤立環境の日本語教育の現状
5. ソフト・パワーの影響力
6. キルギス共和国における日本・日本語についての関心度調査報告

3. 研究課題

- ・キルギス共和国と日本の歴史的・経済的関係や外交戦略を明らかにした上で、キルギス共和国が求められる日本語教育の方向性を探る。
- ・キルギス共和国における日本・日本語関心度調査や「日本語学習観」「日本語教授観」の結果を通して、日本語教育に対する意識を探る。

・キルギス共和国における日本語教育定着のために必要とされる非母語話者日本語教師養成方法を検討する。

4. 今後の研究計画

中間評価論文では、主にキルギス共和国における日本語教育について触れるが、博士論文では、孤立環境として、他の中央アジア地域（ウズベキスタン共和国、カザフスタン共和国、タジキスタン共和国等）の状況も比較し、日本語教育の構築、定着のための必要要素、地域の特性に合わせた日本語教育、現地人日本語教師養成について考察し、社会的要請に適う研究成果をまとめたい。

質疑応答

指定討論者のお二人からは、日本が他外国に対してどのような日本語教育政策を行っていて、それが他の国々と比べてどのような状況にあるか、発表者の主な研究課題は何か、キルギス共和国が外国語教育政策についてどのような見解を持っているのかといった幅広い質問をして頂いた。

他のプログラム生からは、「孤立環境」という用語の定義、インターネットを使っの日本語教育の可能性についての質問をいただいた。

今回の発表は、中間評価論文の概要報告になってしまったため、具体的な分析を提示することができなかったことが反省点である。他領域の方から意見を聞くことができ、現在の自分自身にどのような視点が欠けているか浮き彫りになった。今回の発表でいただいた質問やご意見を中間評価論文の執筆にいかしていきたいと思う。